

第33回全国都市緑化よこはまフェアについて

『Garden Necklace YOKOHAMA2017』

横浜市環境創造局公園緑地部長 兼 全国都市緑化フェア推進担当部長

中 野 創

自己紹介

私は昭和59年に千葉大学園芸学部環境緑地学科を卒業し、横浜市に造園職として入庁しました。その後、公園やみどりの管理、計画などの仕事だけではなく、都市デザイン室にも長く在籍し魅力あるまちづくりの仕事にも従事しました。

この4月から公園緑地部長に着任していますが、今回は、第33回全国都市緑化ヨコハマフェア実行委員会事務局長として、フェアの実施概要などを紹介させていただきます。

1 はじめに

横浜港は1859年に開港し、明治時代にはユリ根の輸出等を通して、欧州の園芸文化の発展に貢献し、花や緑における日本の窓口としての役割を果たしてきました。

公園緑地の分野では、横浜市は明治3年の山手公園の開設に始まり、震災復興による山下公園の整備など、魅力的な公園緑地を整備してきました。また、昭和40年代には全国に先駆けて独自の緑地保全制度に取り組み、平成21年にはみどりアップ計画により、樹林地の保全や市民が実感できる緑の創出など、先進的な取組を進めてきました。

これまで横浜が培ってきた歴史と文化、花と緑の取組を内外に発信するため、全国都市緑化フェアを開催しました。



氷川丸と未来のパラ園

・開催概要

名称：第33回全国都市緑化よこはまフェア

愛称：ガーデンネックレス2017

開催期間：2017年3月25日～6月4日（72日間）

来場者：600万人

開催理念：『歴史と未来の横浜・花と緑の物語』をテーマに美しい花と緑豊かなまち横浜の実現

2 会場全体概要

よこはまフェアの会場は、開催理念を実感・体感できる「みなとガーデン」「里山ガーデン」を『メイン会場』として設定しました。また、市内の花や緑の見どころがある施設や横浜市の緑の取組に係る施設を『パートナー会場』として設定しました。

みなとガーデンは、横浜公園、山下公園、港の見える丘公園からみなとみらい地区一帯の公園や港湾緑地、街路を含めた街全体を会場としています。開港以来の歴史ある港町の風景や観光地として魅力ある景観に、さらに花や緑を彩ることで、花や緑にあふれた景観を楽しんでいただけるような会場設定としました。

里山ガーデンは、横浜市内陸に立地する「よこはま動物園ズーラシア」に隣接する約20haの豊かな樹林地で、保全された緑の魅力や楽しみ方を身近に実感、体感していただけるよう、大規模な花の景観や体験型のプログラムを展開しました。

更に、よこはまフェアでは行政主体の会場づくりだけでなく「連携イベント」として「フラワー&ガーデンショー」といったような他の主体の実施するイベントと広報・PRの連携をさせて頂き、まち全体を花で盛り上げることができました。

また、会場における花の演出については造園業者だけでなく、多くの方にご活躍いただきました。例えば、港の見える丘公園の「ハンギングバスケットの丘」では（一社）日本ハンギングバスケット協会の会員の皆様がつくりあげた100基以上の多彩な美しいハンギングバスケットが来園者を魅了しました。

よこはまフェアはこのように、多くの方々にご協力

いただくことにより、多くの来園者に花や植物の魅力
を伝えることができました。

3 みなとガーデン

みなとガーデンでは、市内臨海部にある公園緑地を
中心とした8つの「メインガーデン」とこれらのガー
デンの回遊ルートとなる公園や駅前等を「まちなかフ
ラワースポット」として設定し、まち全体を花で彩る
ような会場づくりを行いました。

・まちづくりと花

みなとガーデンのメインガーデンとなったのは臨海
部にある主要な緑地であり、山下公園や港の見える丘
公園のような公園緑地、象の鼻パーク、新港中央広場
といった港湾緑地、更には日本大通りといった街路に
より構成されています。これらの緑地は山下臨港線ブ
ロムナードといった歩行者ネットワークにより結節さ
れており、周辺には赤レンガ倉庫をはじめとした歴史
的建造物が多く残されています。これらの都市基盤は
横浜の臨海部の魅力であり、都市デザイン室等におい
て私が長く携わってきた領域でもあります。みなと
ガーデンではそれらの都市基盤を花や緑により更に魅
力的に演出をおこないました。これは、「公園緑地」
「港湾緑地」「道路」といった行政区分を超え、花や
緑による美しい街を具現化するということであり、緑
化フェアの本来の目的でもあります。

各会場ではそれぞれの花の演出方法を変え、回遊し
ながら異なった花の景観を楽しめる、回遊性の高い会
場の特性が生きるような会場づくりをおこないました。

さらに、緑化フェア後も地域で緑化の取組がひろが
ることを目的に多くの市民と協働で会場づくりをおこ
ないました。「球根ミックス花壇」(山下公園)では
市内の愛護会と連携した花壇づくり、「タネ団子花壇」
(象の鼻パーク)では地元小学生等と連携した花壇づ
くりをおこないました。

・人々を魅了した花「バラ」

みなとガーデンでは最も人々を魅了した花は市の花
でもある「バラ」であったと思います。バラを中心と
したコンテンツとしては「3つのバラ園」と「日本大
通りフラワーフェスタ」があります。バラの演出につ
いては、よこはまフェアの統括アドバイザーであり、
ローズガーデンの第一人者でもある白砂伸夫先生に監
修をしていただきました。



球根ミックス花壇

・3つのバラ園

みなとガーデンのバラ園は全部で3つあり、「未来
のバラ園」(山下公園)、「香りの庭」(港の見える
丘公園)、「イングリッシュローズの庭」(港の見え
る丘公園)です。バラ園はみどりアップ計画の一環と
して平成27年度に既存のバラ園等がリニューアルされ
たもので、フェアまでの1年間でバラや草花を育成し
なければならないという課題がありました。バラの育
成については横浜イングリッシュガーデン・スーパ
バイザーの河合伸志先生等にご尽力いただき、フェア
時には見事にたくさんのお花を咲かせることができま
した。

3つのバラ園はそれぞれ個性的なコンセプトを持っ
ています。山下公園の「未来のバラ園」では市の花で
あるバラをより広く市民に普及するために、丈夫なバ
ラを中心に多彩な草花とともにアーチやオベリスクに
より立体的に演出し、ライトアップによって夜も楽し
めるバラ園としています。特にバラ園中心部にあるス
タンド仕立てのアイスバーグが印象的です。



スタンダード仕立てのアイスバーグ

港の見える丘公園の「香りの庭」では「香り」をテーマに特に香りの強いバラ（約100種）とともに香りの植物を集めた庭となっています。バラのアーチではつるバラから降り注ぐフレグランスシャワーが多くの人々を香りて魅了していました。

「イングリッシュローズの庭」は横浜西洋館の一つであるイギリス館の前面に位置し、約150品種1,200株のイングリッシュローズを中心としたバラ園となっています。これらのバラ園はフェア後もお楽しみいただけます。



香りの庭



華麗なるバラの競演

・日本大通りフラワーフェスタ

日本大通り会場で実施した日本大通りフラワーフェスタでは、テーマフラワーを中心に横浜らしくおしゃれに通りを彩ることをコンセプトにチューリップを中心とした開幕～4月下旬を「華麗なる春の饗宴」、4月下旬～閉幕までをバラを中心とした「華麗なるバラの競演」として演出しました。バラについては多客日であるGWをピークに演出するため、約1,200本のバラを開花調整して使用しています。バラを開花調整したことにより、テーマフラワーである「サクラ」

「チューリップ」（開幕～4月下旬）から「バラ」（5月中旬）を会期中途切れることなく多くの来園者に見所として楽しんでいただくことができました。

4 里山ガーデン

「里山ガーデン」では、横浜市が重点的に保全をしてきた緑の拠点という立地環境やスケールを活かして、ダイナミックな景観や体験を楽しんでいただくことで、保全された緑が身近にあることの豊かさを実感していただけるよう企画しました。

樹林地内のひらけた南斜面を活用し、市内では最大級となる約1ヘクタールの花畑（横浜の花で彩る大花壇）を整備しました。また、谷戸の地形が残っているエリアでは、フェアの開幕時を彩る菜の花畑を整備するとともに、湿地環境を活かしたカキツバタ園を整備しました。

樹林地を楽しむ企画として、保全された樹林を使った空中アスレチックを整備しました。保全された樹林地の新しい楽しみ方を体験していただき、樹林の中でダイナミックに体を動かしながら、豊かな緑の良さを体で感じてもらうことができました。



横浜の花で彩る大花壇

・横浜市内産花苗を使った大花壇

里山ガーデンのメインの見どころでもある、「横浜の花で彩る大花壇」では、横浜市が全国でも生産量トップクラスを誇るパンジーやビオラ（フェア前半）、ペチュニア（フェア後半）などの花を使い、横浜の花卉農業についてのPRを行いました。

パンジーやビオラ7万株、ペチュニア5万株を会期中に花が満開を迎えるよう市内生産者の方々と綿密な調整を行いながら、品種や納品数の検討をしました。パンジー・ビオラは近年通常冬（12月頃から）に市場に

多く出回っているのですが、今回フェアに合わせ2月から3月に植え付けができるよう生産調整を行っていただきました。

前半の2月から3月と後半の4月にかけての納品の際には、効率的に納品及び花苗の植え付けができるように、日ごとに各生産者の方々の納品数や納品時間等を細かく計画しました。

花苗の植え付け後は生産者の方のアドバイスのもと、霜被害を防ぐために、風を循環する扇風機の設置や霜よけシートの設置を行いました。

市内産の花苗を中心に彩られた約1ヘクタール大花壇は、多くの方楽しんでいただくことができました。毎日、里山ガーデンにはカメラを持って花の写真を撮る人や小さなお子様連れの親子、老人会の集まりなどたくさんの方にお越しいただきました。子供から高齢者の方まで花に触れ合う機会をつくったのではないかと思います。



花苗の育成状況の確認



納品状況

5 おわりに

毎年全国各地で行われている全国都市緑化フェアは、美しい花や緑がある街の良さを実感していただく非常に良い機会です。よこはまフェアでは、多くの市民や企業の皆様と一緒にゆっくりしていくことを通して、緑に親しみ、楽しむ機運を高め、花や緑の街づくりが市内各地で継続して広がっていくよう、取り組んでいきました。会場となる公園などでは、質の高い花や緑の環境を創りながら、横浜の魅力づくりに生かしていくことで、多くの方々に横浜を訪れていただくきっかけとなったのではないかと思います。

こうしたよこはまフェアの成果を一過性のものに終わらせることなく、しっかりと根付かせ、育てていきたいと考えています。



ウェルカムガーデン（里山ガーデン）